

資料 1

第113回火山噴火予知連絡会幹事会 議事録

日 時：平成21年6月18日10時30分～12時00分

場 所：気象庁会議室

出席者：会 長 藤井

副 会 長 石原

幹 事 池内 今給黎 植木 大島 佐藤 清水 増子 渡辺 横山

事 務 局 齋藤 小久保 瀧沢 平松 道端 上山 齋藤（公）

地震火山部長 伊藤

オブザーバ 本橋 高木（内閣府） 井上（砂防部） 溝上 長岡（文科省）

西（国総研） 山里（気象研）

1. 開会

名古屋大学木股教授が欠席

国総研からは寺田委員の代理で西土砂災害研究官が出席

配付資料について説明

2. 報告事項

① 会長、副会長、伊豆部会長の改選、移動による委員交代について

横山委員から配布資料をもとに説明

② 科学技術・学術審議会測地分科会の活動状況について

増子委員から配付資料をもとに説明

③ 平成21年度補正予算による火山観測施設の整備について

齋藤火山対策官から配付資料をもとに説明

<質疑等>

- ・5月28日の打ち合わせ会での配布資料から変更点はあるか？
- ・1、2枚目には変更はない。3枚目について補足すると、更新を含めた数。
- ・官報公告はどのような単位で行っているのか？
- ・地域ごとではなく、全国一括で行っている。
- ・新設のボアホール観測点は何箇所になるのか？
- ・参考資料中の整備観測点数は全て新規に整備するという意味。既設の観測点を更新する点もある。ボアホールは47箇所。大雪山・十勝岳・白山・鶴見伽藍・薩摩硫黄島に硫黄等を含めて6地点についてはボアホールが難しいので地上設置とした。

④ 老朽化した火山観測基盤の再生による研究力の維持・高度化

増子委員から配付資料をもとに説明

<質疑等>

- ・GPSの観測データは防災科研の中で利用されるのか？
- ・そのとおり。当然公開もされる。

⑤ 平成21年度火山関係研究予定

国土技術政策総合研究所から配付資料をもとに説明

⑥ 「火山ボーリングコア解析グループ」の設置について

齋藤火山対策官から配付資料をもとに説明

<質疑等>

- ・コアは産業技術総合研究所（以下、産総研）のコア倉庫に収納させてもらう。この機会に採取コアを解析するために火山ボーリングコア解析グループを設置したい。火山体での工事などに伴い現れた露頭についても、国が用意してほしい。今回を一つの契機にしてほしい。コアの採取については可能な限り慎重にお願いしたい。
- ・1次記載は産総研のフォーマットで行うということだが、とりまとめはどのように行うのか？
- ・1次記載のフォーマットについては調整中。
- ・47火山全てコア解析するのか？
- ・そのとおり。山体から遠い地点でも一応コアは取って全て1次記載する。
- ・岩盤の位置を確かめるために基本的にはコアをとる。1次記載の時点で正式な試料として登録するか捨てるかを判断する。
- ・情報公開の型式として、当然GIS化できるようにして頂きたい。また、予報部のXML化と併せて、データの履歴やフォーマット等を記載したメタデータをXML形式で作成してほしい。
- ・産総研の中に登録されたデータはGIS化され、全国の地質図の中に書き込まれる。
- ・XMLフォーマットについては予報部だけではなく一般に気象庁が発表する情報は全てXML化される。
- ・コア試料使用の優先権は担当者の物と書いてあるが、コアの解析も担当者優先ということなのか？どこまで優先権を持つのか教えてほしい。
- ・担当して頂いた方にまず最初にコアを解析して頂こうと考えている。
- ・担当者以外は手を付けられないような印象を受ける。データ独占にならないように配慮して頂きたい。
- ・データ独占のような状態にはしないようにしたい。ただ、コア取りにご協力いただいた先生には優先するということである。
- ・1年程度はある程度担当者が独占して、その後に公開されるということか？
- ・産総研の資料は1年後に公開される。
- ・試料の使用に関するルールを明確にして文書化してほしい。
- ・コア採取は9月なので、それまでに運営のルールをグループで定めたい。
- ・本日の記者レクでもコア解析グループの運営について報道発表する。

⑦ 噴火警戒レベルの導入状況について

齋藤火山対策官から配付資料をもとに説明

<質疑等>

- ・資料の2ページ目で浅間山の2009年のレベルの記載が抜けている。

- ・修正する。

⑧ 今年度の気象庁機動観測実施計画について

齋藤火山対策官から配付資料をもとに説明

<質疑等>

- ・補正予算の関係で、この表のとおり機動観測を実現するのは難しいが、協力機関とともに実施予定の浅間山（名大）、桜島等は必ず実施する。

⑨ 三宅島の火山ガス中警報の発令状況

齋藤火山対策官から配付資料をもとに説明

<質疑等>

- ・坪田は非常に長い期間、警報が発令されている。

⑩ 衛星解析グループの活動状況について

齋藤火山対策官から配付資料をもとに説明

⑪ 火山活動評価検討会の検討状況について

石原委員から配付資料をもとに説明

⑫ 火山観測体制等に関する検討会の検討状況について

清水委員から配付資料をもとに説明

<質疑等>

- ・重点的に強化すべき16火山について大学の学術的観点から選定しているが、気象庁の監視の強化という観点と必ずしも一致していない。16火山とその他の火山を分けずに並べて書いたほうが良いのでは。
- ・16火山とそれ以外の火山を分けずに記載しようと思う。
- ・全体を監視観測体制の強化が必要な火山として1つにまとめて書いて、その中で備考を使って研究上の区分を書くようにするほうが良い。
- ・両者を区別しないように作り直したい。
- ・骨子については、補正予算による整備の結果やデータ流通についての検討会の結果も反映されるが、骨子に入れ込む形で記述するか個別に章立てするかは今後検討する
- ・JAXAとの協力について、リモートセンシングを監視体制に含めることは可能か？
- ・国土地理院ではALOSだいちのデータを使って火山の監視を行っている。硫黄島などでは観測できている。
- ・今後リモートセンシングについて記述していただけないか。
- ・特に海域の火山については、海上保安庁がやっている。気象庁でも衛星可視画像で火山活動の継続変化を監視したいと思っている。
- ・気象庁はVAACなどで衛星を利用しており、監視に使用している。国際的な関心も高いので、パラグラフを一つ設けて解説してほしい。

- ・衛星監視については、熱映像を使う手法がある。かなり小さな熱異常でも判定できている。報告書にどこまで盛り込むかは検討が必要だが、リモートセンシングについてはどこかに書き込んでほしい。
- ・中間報告はたたき台であるので、最終報告までに整理したい。
- ・明らかな誤りが有れば修正するので、随時ご指摘頂きたい。
- ・データ流通・共有については大事なので早く会議の場を設けてほしい。
- ・7月6日に実施する予定なので、ご理解頂きたい。

⑬ 火山地域における噴気等調査検討会の状況について

齋藤火山対策官から配付資料をもとに説明

3. 「全国の火山活動の評価」(案)

小久保火山活動評価解析官から配付資料をもとに説明

<質疑等>

- ・浅間山について国土地理院と気象庁で認識が違うのか？
- ・国土地理院で観測しているデータでは膨張は止まっている。
- ・収縮のモードに入ったのではなく停滞しているのか？
- ・一番近い測線で見ると、停滞しているように見える。縮んでいるかどうかは微妙だ。
- ・今期間に実際に噴火を起こした火山について簡単に記述したほうが良いのではないか。
- ・噴火を起こした火山については、三宅島・浅間山・諏訪之瀬島・桜島で、それらを冒頭に追加する。

4. 連絡事項

- ・午後の定例会は13時から講堂で開始する。記者会見は18時から会長・副会長・火山課長が行い、活動評価等について説明する。

本会議終了後に現業室の見学を予定しているので、是非参加してほしい。

5. 閉会